

2021年7月16日

県立長野図書館

県立長野図書館「ミッション・ビジョン」最終案について

- **令和2年度第2回協議会における主な意見(2021/02/04)**
 - ・ 理念的な事項に対する具体的な実現策があると、分かりやすいのではないかと。
 - ・ 長野県で唯一の県立図書館として、県立にしかできないことをお願いしたい。
 - ・ 「ミッション・ビジョン」を検討することそのもの、検討のプロセスが重要。
 - ・ 市町村図書館の立場として方向性には賛同するが、現場の感覚からすると、どうしても置いていかれている感がある。
 - ・ 「ミッション・ビジョン・バリュー・アクション」という4構成は良いと思う。県立長野図書館の方向性はわかるが、それによって、県民にはどう影響するのか。どんな変化があるのか。また、評価指標が必要ではないか。
 - ・ 県立長野図書館が何なのかがまだはつきりしない。例えば県立の役目としてどんな資料を収集するのか。郷土資料ならなぜ貸出しないのか。直接サービスを行う意味は何か。「ビジョン」のレベルに書かれていることのうち、下線以外の部分が「ミッション」ではないのか。現在の「ミッション」は「フィロソフィ」と呼ぶようなものではないか。

- **Labo. Cafe#10 うなずき珈琲（館長カフェの会）に寄せられた主な意見(2021/02/27)**
 - ・ 問いかけ：皆さんにとって、図書館がどんな「場」だったら嬉しい？ 1年後、5年後、どんな風に過ごしていきたい？ 日々の積み重ねが、30年後、100年後を形づくとしたら？ 未来の図書館の姿を想像し、語り合ってみませんか？
 - ・ 参加者：36名（オンライン：15名、リアルカフェ：19名）
 - ・ 「社会の中で、弱い立場の人に寄り添うところであってほしい」「デジタル・デトックスしたくて来ています」⇒「長野県 eLibrary 計画」を進める際の留意点
 - ・ 「夢の実現につながる場所」「こういう話ができる場に参加できたことが嬉しかった」⇒「場」の必要性、未来への期待感。

- **職員意見交換会における主な意見(2021/05/21)**
 - ・ 行政職員の視点で、現在の案や議論の内容を点検。
 - ・ 県民に将来像を理解してもらうために、目指す社会の姿を明確にしたい。
 - ・ 政権が変わっても変わらない普遍的な姿『長野県総合5か年計画 しあわせ信州創造プラン』よりも長いスパンで考えたい。
 - ・ 共感ポイントがほしい。県民や市町村から見て疎外感がないように。
 - ・ 国際対応は、英語版をだすのもよいが、多文化共生の観点からは易しい日本語を用いるのがトレンド。

● 最終案→令和3年度第1回協議会へ提出(2021/07/16)

- ・ 主な修正点：下線部分。
- ・ 基本的には県立長野図書館のミッションなので主語は図書館だが、県民目線を大切に「知る」「出会う」「育む」というキーワードを付記した。
- ・ 「誰のための？」については、「信州に関わる全ての人々」と表現した。
- ・ 4段階構成は踏襲したい。「アクション」は「事業計画」として『図書館概要』などでも出していく。「取組方針」は数年スパン、「主要事業計画」は年ごとに出す。
- ・ ウェブサイトは、「県立長野図書館のめざすこと」>「ミッション」というページがあるので、ここに掲載する（現在は「準備中」）。事業計画は当該年のものだけではなく、過去分も蓄積していく。
- ・ 評価は、「主要事業計画」で掲げた事項について、「ビジョン」「バリュー」に照らして行い、次の「事業計画」に反映する。『図書館概要』にも記載したい。

「共知・共創の広場」～県立長野図書館の使命～（最終案）

使命 (Mission)

県立長野図書館は、「共に知り、共に創る広場」として、
信州に関わるすべての人々が「自由に考え、意見を表明し、社会に参画し、意思決定することで、
個人と社会の幸福を追求する」という、民主的社会的な普遍的な価値を支えるため、
人類社会の文化的な発展と平和な世界に、将来にわたって寄与しつづけます。

展望 (Vision)

- ① **「知る」…情報の改革**：いつでもどこからでも、時間と空間を越えて、すべての人々が等しく情報を入手し、活用し、成果を発信できるよう、人生を豊かにする創造的な学びの情報基盤を整え、情報格差を解消し、次世代へと継承していきます。
- ② **「出会う」…場の革新**：考え、対話し、体験することを通じて獲得できる「実感ある知」の循環を生み出し、新しい価値を創り出すために、実空間と情報空間が融合する、開かれた場を形成します。
- ③ **「育む」…人の変革**：いかなる社会変化にあっても、「知る自由」「学ぶ自由」を保障する図書館の本質的機能を、技術革新を取り入れながら最適化し、最大限活用できる人づくりに貢献します。

行動指針 (Value)

- ① **協働します：(Collaboration コラボレーション)**
県内外の図書館や各種の文化施設・社会教育施設を始め、広く教育・学术界、産業界や社会的活動を行う人々と力を合わせます。
- ② **接続します：(Connecting コネクティング)**
さまざまなコミュニティや人々が信州の自然や社会の営みの中で日々生み出す、「現場にある知」、「暮らしの中の知」を、つなぎ合わせます。
- ③ **強みを生かします：(Competency コンピテンシー)**
図書館の普遍的な役割である資料・情報の収集・保存・発信・活用について、専門的な知識・スキル・マインドを持つ職員を育成し、強みを生かして社会に貢献します。
- ④ **挑戦します：(Challenge チャレンジ)**
市町村や公共図書館等の取組を下支えし、展開するとともに、自ら先進的なサービスを実験・実践することを通じて、人々と共に成長し、変化に強い図書館づくりに挑戦しつづけます。

I 令和3年度事業

1 取組方針

図書館の位置づけ

『しあわせ信州創造プラン 2.0～学びと自治の力で拓く新時代～長野県総合5か年計画』

【総合的に展開する重点政策】

学びの県づくり 生涯を通じて学べる環境の整備

- 図書館や公民館を活用し、多様な価値観を持つ人々が集まり、影響し合い新しい社会的価値を創ることができる場や機会の提供
- 図書館・美術館・博物館・学校などの地域における学びの場や、ICTを活用した学びのネットワークの構築を検討

産業の生産性が高い県づくり 革新力に富んだ産業の創出・育成(起業・スタートアップへの支援)

- 多様な人々が共創する草の根イノベーションが生まれる環境づくりを県内の図書館や公民館などと連携して進め、地域の課題に対処するソーシャル・イノベーションの取組を促進

第3次長野県教育振興基本計画

【基本理念】「学び」の力で未来を拓き、夢を実現する人づくり

【重点政策】

「共に学び合い、共に価値を創る」学びの環境づくり

社会教育施設を活用した、創造的な学びの場や機会の提供

- 県立図書館を中心とした多様な情報や人がつながり、アイデアを形にしていける「知と創造の場」としての図書館づくり

【政策】

学びの成果が生きる生涯学習の振興

- 信州にまつわる情報資産の収集保存を強化
- 県立図書館と市町村立図書館とが連携して、情報活用能力の向上に資するプログラムを実施
- 県立図書館を中心に多様な情報や人をつなぎ、「みんなの学び」を推進していくモデル空間を整備

計画に沿って取り組む

令和3年度取組方針

- 1. 資料・情報**：いつでも・だれでも・どこからでも、県民が生涯にわたり「知る・学ぶ」ための「資料・情報」を、収集・保存・活用・発信する情報基盤を進化させ、蔵書構成のあり方を総合的に見直します。
- 2. 空間・場**：実空間である図書館の1～2階のフロア、3階の「信州・学び創造ラボ」を情報空間とつなぎ、それぞれの強みを生かし、融合させながら、知的活動が展開・循環する「場」を進化させます。
- 3. 人材育成**：潜在的な利用者を含めた、全ての県民の学び合い・知的な活動を支えるために、市町村図書館を始め、文化施設・教育機関、県内外の関心を共有するすべての人々と協働し、共に成長していきます。
- 4. 長野県 eLibrary 計画**：図書館の機能を「紙」と「デジタル」、「館内」と「館外」の軸で4つのカテゴリーに分類し、それぞれ最適な方法でデジタル化・ネットワーク化を進め、図書館機能・サービスを進化させます。「信州 ナレッジスクエア」の拡充と、電子書籍サービスの新規導入の検討を重点的に進めます。

2 主要事業計画

(1) 資料・情報

- ① 長野県唯一の県立図書館の責務として、信州に関する地域資料を網羅的に「収集」し、次世代に確実に継承する「保存」と、資料を最大限活かす「利用」とを戦略的にバランスよく行うため、県内外の関係機関との役割分担を行いつつ、蔵書構築のあり方を見直す。
- ② 資料の保存場所を確保し、書庫出納やレファレンス対応効率化を図るため、書庫棟 6 階の整備を行い、将来を見越した最適な資料配置を行う。
- ③ 利用者自身が課題を見つけ、調べ、解決する力を身に着けることを促す調査・相談（レファレンス）を実施する。
- ④ 情報アクセス環境の地域間格差是正のため、相互貸借送料支援および全県向けインターネット貸出を実施し、普及させる。

(2) 空間の整備と、それに伴う活動の推進

- ① 「共知・共創」をコンセプトとする「信州・学び創造ラボ」において、県民の主体的活動と学びのコミュニティづくりを促し、これからの公共空間や新たな学びのモデル構築を図る。
- ② 試行錯誤ができる「学びのツール」として、「モノコトベース」をさらに活用し、コミュニティや関係機関とも協働しながら、新たな学びの仕組みを拡げていく。
- ③ 実空間と情報空間を融合させ、ICT を利活用したコミュニケーションの場を企画・提供する。
- ④ 図書館を「新しい出会いと発見が促される場」と捉え、1 階 児童図書室・2 階 一般図書室における「新しい発見・学び」のプログラムを展開する。

(3) 各区域・分野における県民の学びを支える人材育成支援

- ① 地域の情報センターとしての役割を果たす人材の育成として、初任・中堅等向けの研修や、共通する課題に取り組み、各館の運営に生かす「これからの公共図書館研究会」を開催する。
- ② 県民の学びを創発する機会として「図書館フォーラム」等を開催する。
- ③ 長野県における知と学びに関わる各種機関が、信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていくことを目的とした「信州 知の連携フォーラム」を一層推進する。
- ④ 広域単位での公共図書館・学校図書館に対する研修会の開催支援（企画相談、講師派遣・紹介等）や、各地域の会議等への出席を通じて、各地域の活動を後押しする。

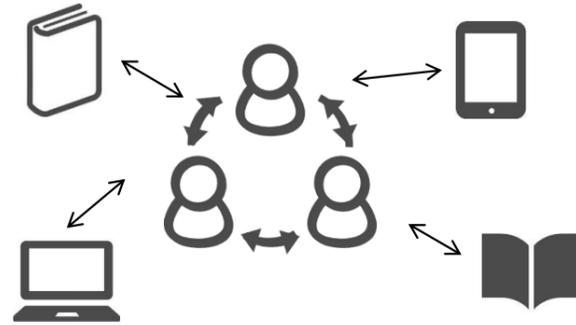
(4) 「長野県 eLibrary 計画」によるデジタル化・ネットワーク化の推進

- ① 図書館機能の高度化の方策として、目録のデジタル化、手続き・サービスのデジタル化、空間や場のネットワーク化、コンテンツの電子化を強化し、これらを使いこなす学びのネットワーク化を推進する。
- ② 自ら学び、調べるためのコンテンツとして、レファレンスで多用する資料を優先的に電子化し、「信州ナレッジスクエア」のコンテンツを拡充する。新たに「長野県リポジトリ（仮称）」を立ち上げ、長野県で生産される知的生産物を収集・保存・発信できる仕組みを提供する。
- ③ 災害時でも学びが継続できる手段を確保し、図書館利用の地域的・身体的なバリアフリー化を実現するために、ICT による付加価値のある学びのコンテンツとして、市町村図書館と連携した全県的な「電子書籍サービス」の新規導入について検討する。

長野県eLibrary計画

(情報種別・利用行動からの整理)

▼ 県民の情報利用行動を起点とする



▼ 「共知・共創の広場」 = 「新しい図書館」を目指したデジタルトランスフォーメーション

地域資料

▼対象とする情報
地域の情報
自ら創った情報

探す・残す・創る

多様な情報源

▼対象とする情報
「本」以外の様々なデジタル情報

探す・発見する

出版物

▼対象とする情報
いわゆる「本」(紙/デジタル)

探す・読む・調べる

読む・調べる

電子書籍：一般書
読書活動・学習支援
一般書、多読テキスト、参考書

電子書籍：専門書
調査研究支援
レファレンスブック

市町村と県との協働事業化
(「長野県DX戦略」先端技術活用推進協議会WGの設置)

調査研究用コンテンツのデジタル化を図り、県民の学びの質向上につなげる

古典・名著のオープンデータの活用(青空文庫等)
→信州ブックサーチへの取込み

▼ 目標

県民が、図書館を通じて手にできる情報の質・量・手段を拡張するための基盤整備

- ⇒人生を豊かにする創造的な「学び」の基盤づくり
- ⇒リアルとバーチャルのベストミックス

▼ 取組みの柱 (進化事業期)

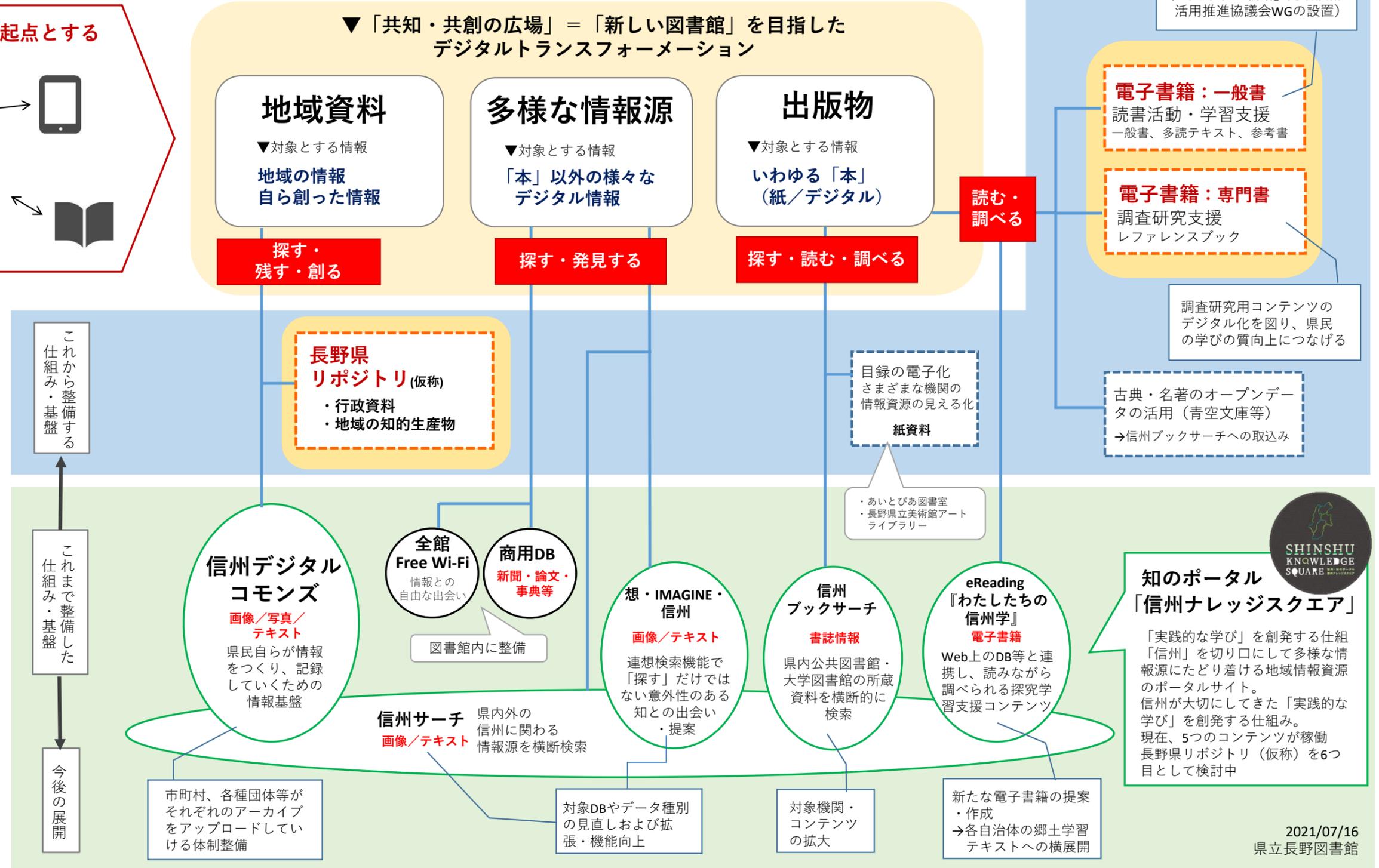
情報・人・場の融合による
・図書館機能のデジタル化
・学びのネットワーク化

重点事業

- ・電子書籍サービス導入
- ・長野県リポジトリ構築

▼ 取組みの柱 (改革事業期)

これまでの図書館を「知識基盤社会の知の拠点」へ転換する
・情報と情報をつなぐ
・情報と人をつなぐ
・人と人をつなぎなおす



2021/07/16
県立長野図書館